

風まち・潮まち・港町

みたらい通志



- 特集・黒田杏子と楽しむ句会…2
俳句は楽しい!
杏子先生、ありがとう。
- みかんの島で農業体験…3
- 俳句交流会・句会…4
- ゆたかまち句集(今回の句会より)…5
黒田杏子選・秋光道女選
- HP 黒田杏子俳句日記より…7
- 御手洗ものがたり…8
トナルト・リチーが歩いた
御手洗の道。
- ゆたかまちの味しまん…9
生ぶりかけの「ユタカ食品」
- なんでも伝言板…10

せんせいに
はじめてあつた
みかんじま
広島市 村越重浩

みたらい通志
2001年 3月 No.7
101401
春光号

豊町商工会



みたらい通志

2001. 3 . No.7

島に吹く風もすっかり春めいてまいりました。先日、東京から俳人の黒田杏子先生をお招きして、句会を開きました。島外からの参加者もあり、句会だけでなくみかん狩りなど先生と楽しい一時を過ごしました。今回の「みたらい通志」ではその様子をお伝えしています。島の早春の風を感じていただければ幸いです。

(豊町商工会会長 村尾征之)



(上写真) 金子賢二さんに丹精されたネーブルの木の下で話を聴く黒田杏子先生。
(中写真) 句会の様子。会場は御手洗の港町交流館。(下写真) 黒田杏子先生と広島藍生のみなさん。



【表紙の写真】

「まるでお浄土のようなところね」と豊町をたいへん気に入られた黒田杏子先生。大長のみかん農園にて。

俳句は返ホしい！
杏子先生ありがとう。

あきみつみちじよ
秋光道女先生

くろだももこ
黒田杏子先生

6年振りに豊町を訪れた「藍生」主宰・黒田杏子先生（写真右）と豊町「早苗」名誉主宰・秋光道女先生（写真左）。2月17日「俳人交流会」で、お二人の先生と参加者が俳句のある楽しい人生を語り合った。



使いこんだ金子さんの
みかん剪定用のハサミ。



ネーブルを作る農家が減る中、こ
だわり続ける金子さん(写真右)。
左は「藍生」編集長の藤井さん。



金子さんのみかん畑から大長集落を望
む。このいらか美は他では見られない。



2月17日。俳人黒田杏子先生を交えた
金子農園ネーブル狩りでの記念撮影。



黒田杏子先生は手にのせた丹精こめて作
られた果実を、慈しみの眼差して見つめる。



みかん畑に腰をおろし、
金子さんとみかんの話
をする黒田杏子先生。



自然を慈しむ素直な心が 句を詠み、みかんを育てる

2月18日豊町で「黒田杏子と楽しむ句会」が催され、前日17日には、「藍生」主宰俳人黒田杏子先生を交えた「みかんの島の農業体験」と「俳人交流会」も行われた。

農業体験会場は、大長の金子賢二さんのみかん農園。「この眺めが大好き」と金子さんが指をさす向こうに、大長集落の黒瓦の見事ないらか青い海と空を見渡す。ここにしかない景色だ。金子さんの指導のもと、参加者はネーブル狩りに初挑戦！あれ？ネーブルの収穫は今頃？「普通は12月じゃけどうちは違う。3月下旬まで果実に袋をかけておくんよ。そしたらジューシーで甘味が増す。手間でもこのスペシャル完熟の味を待つとお客さんのために続けるんよ」と金子さんは顔を輝かせてみかんの話をする。袋をはぎ香とともに現れたネーブルを摘み、頬張るとても甘かった。ご馳走さま。

農業体験後、しまなみ海道や四国の公園を黒田杏子先生と歩く。空気がとても澄み柔らかい日差しが心地いい。誰かが「『山ねむる』ですね」と言えば「もう『山わらう』よ」と黒田杏子先生。「山わらう」は春の季語らしい。黒田杏子先生は何かを確認するようにゆつくりと歩き、そして「これは桜の木、これはマンサクそして…」と、ご自分が見つけた小さな春の喜びをみんなに分けてくれた。



「俳人交流会」「黒田杏子と楽しむ句会」の会場となった御手洗の港町交流館は、色々な交流の場として活用されている。

「俳人交流会」では参加者がそれぞれの俳句への思いを語り、お二人の先生との交流を深めた。



昨年創刊 10 周年を迎えた主宰誌「藍生」。右は 10 周年記念号。



唯一の小学生の参加者の村越正浩クンと先生。素直に詠んだ句が入選。



杏子先生の楽しいお話に会場は盛り上がる。左は秋光道女先生、中央は長本町長。



47 名が句会に参加。句を詠んでいるのは広島藍生代表世話人の平岡さん(写真左立っている人)。

俳句の島の句会にて

百三十八の感動に出会った

「藍生」主宰の黒田杏子先生、豊町「早苗」名誉主宰の秋光道女先生をはじめ、島内外から俳句を愛する人達が集まった「俳人交流会」が御手洗の港町交流館で開かれた。参加者の自己紹介では、それぞれの俳句との関わり方や、俳句のある人生の楽しさが語られた。一体俳句とは何なんだろう？

「生きてきたことが活きるのが俳句。それは年輪と同じ」『俳句は挨拶。人や物、季節や歴史に出会う度に新しい言葉にふれる』『観察と感動から句は生まれる』と黒田杏子先生。会場をあとにしながら、明日の句会に初投句してみようと句を詠む自分がいた。

「黒田杏子と楽しむ句会」当日、島内外 47 名の投句があった。詠手全員が無記名の 138 句から各人 3 句を選び終えると、いよいよ句会が始まった。広島藍生代表世話人の平岡敬一郎さんが選者名を読み、句を詠上げる。するとその句の詠手が大きな声で名前を言い挙手する。これが繰り返し行われ、会場は心地よい緊張感で包まれた。誰がこの句を詠み、この句を誰が選んだかを知ることは、言葉を交わさず、句を通して自分の心の奥や生き様をお互い見せ合ったように親しみを感じる。俳句は楽しい。今回、黒田杏子先生をお迎えし、島内外の参加者と俳句を通じて楽しい交流ができたこと。編集スタッフとしても貴重な 2 日間だった。



黒田杏子選

「黒田杏子と楽しむ句会」は今回の選者であるお二人の先生が選んだ句の発表と寸評で締括られた。「俳句の基本は観察。見た物、感じたことを素直に伝える世界で一番短い詩形」と話された黒田杏子先生の言葉が心に残る。

特選

初蝶をみつけし子等の母病みぬ

広島県豊町 秋光 利子

入選

また朝が来たと言ふ父丁字咲く

広島県豊町 元和木 恵美子

初めての句会庭には梅の花

広島県豊町 金子 悦子

飯面ベルソナをはづす淡雪消ゆるまで

広島県豊町 青天子

袋はぎネーブル摘めば島の春

呉市 土井 康子

せんせいにはじめてであったみかんじま

広島市 村越 正浩

努力賞

人生の木接ぎ木でワシも折り返し

広島市 小原 潔

島に買ふきんぴらパンを梅の花

東京都 藤井 正幸

我夫の輝ける顔みかん山

広島県豊町 金子 悦子

春耕の潜り返して百足かな

広島県豊町 田中 郁子

飾るものなき山頂は深眠り

広島県豊町 長濱 フジノ

ネーブルのうまさを言ひて島の春

東京都 藤井 正幸

ふたたびの島ふたたびの野水仙

広島市 山野上 雨彦

日の暮れて海を皆に山眠る

広島市 飛弾 裕子

廃港に船具店主の冬帽子

広島県豊町 新田 奥鳩

しほさるや崖に乗り出す水仙花

三原市 山本 義之





秋光道女選

特選

大寒や一書を抜きて一書の間

広島県豊町

多武保 和子

入選

また朝が来たと言ふ父丁字咲く

広島県豊町

元和木 恵美子

笹啼きに視界ひろがる島の明

広島県豊町

長濱 フジノ

衿巻に隠すつもりよわいのなき齡

広島県豊町

西本 房恵

星宿す江に梅の香の広がりぬ

広島県豊町

五領田 幸子

聞き耳を立てゐる亀に山笑ふ

広島県豊町

多武保 清水

努力賞

人生の木接ぎ木でワシも折り返し

広島市

小原 潔

兎飛び校長もある寒稽古

広島県大崎町

松岡 時子

島に買ふきんぴらパンを梅の花

東京都

藤井 正幸



上写真・みかん畑より見渡す大長集落
中写真・みかん山で輝ける金子さんの顔。
中写真・ちょっとタテ長の楕円形が旨いのだ！
下写真・ネーブル狩りに参加者は満足そう。



黒田杏子俳句日記

二月二十日（火）

瀬戸内海に浮かぶなつかしい島、大崎下島（しもじま）に行ってきた。広島県豊田郡豊町御手洗（みたらい）。この潮待ち岬や港町交流会を会場に、豊町商工会主催の句会と俳句交流会があり、その講師として招かれたのである。旧知の長本（ながもと）憲町長をはじめ、この町には友人知人が多く、私にはふるさとのようにくつろげる島だ。前日までの京都・嵯峨野のぼたん雪が嘘のよう。瀬戸内は養蚕の空回し。高速船で竹原から四十分、三原から一時間。浄土のように青い海原。

雲雀東風（ひばりごち）いや 鯖東風（さわらごち）焼けてきし

二月二十一日（水）

浄土のように風（な）ぎわたる海原に浮かぶ島の港町には見どころが多い。国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている御手洗地区には風待ち潮待ちの中継貿易港として人や物が集まり、交流した歴史の残像がちらばっている。遊女の墓が百基も群立し、寄り添い、もたれ合っているあたりをゆけば、この国の歴史の下層に沈んだ女たちの声も聴こえてくるようだ。

亀鳴くとをみな墓群ぼくん立ちあがり

二月二十二日（木）

大崎下島はみかんの島。だんだん畑にみかん、デコボン、ネーブル、はっさく、いよ柑、甘夏、レモン、文旦（ぶんたん）などの木が並ぶ。金子賢二さんの名刺には肩書が百姓と印刷されていて嬉しくなった。このダンディな農園の主（あるじ）に、丹精されたネーブルの木の下で話を聴く。島の山畑には猪も狸も棲む。彼らがこの離島にどうやって渡ってくるのか、そのアクセスを金子さんに教えられて感心してしまった。

泳ぎくる猪橋をくる狸

二月二十三日（金）

豊町の集落を高みから見下ろすと、いずこも立並ぶ家々の黒瓦のどろしりとした屋根の接し方が見事だ。近年は火災に遭わなかったことと風待ち潮待ちの港として、天災にも見舞われずきた歴史がうかがえる。ここはもう春。おぼろの闇に手を挙げれば、さくさくと指にも触れかばかりの春の星座。ネオンを見ない夜道をゆけば、星あかりというなつかしい日本語を実感できる島である。

きさらぎの星の港の屋根瓦

●HP 黒田杏子俳句日記より

今年1月からホームページ上でスタートした「黒田杏子俳句日記」。黒田先生の今日の一句がタイムリに掲載され、毎日新しい季節の輝きに出会える。

[ホームページアドレス]

<http://www.ifnet.or.jp/~fragie>

ドナルド・リチーが歩いた

御手洗の道

通りの曲折における考察

通りは曲がりくねり、家々の表や裏を通り山腹の寺やただ一軒の船小屋や料理店を過ぎると、海岸から離れて、漁村の道になる。こういう通りは震災前か戦争前の東京に見られた。それは、表通り、裏通り、路地の三位一体の通りで、今でもたまに浅草や上野でひよいと出くわすことがあり、通りの曲折は、誰かがここに家を、あそこに店を建て、通りを狭くしたり広くしたり、ここで曲げたり、あそこでぐるっと回したりといった幾

春秋を経た上での曲折でもあった。家並みが通りをつくりだしたように、町角の偶然事が町をつくりだしたのである。通りを真っ直ぐにして、能率的で便利にするといったことは、昔の江戸でも、ここ御手洗でも誰も考えなかった。町を通りぬけるのに倍も時間がかかる。と文句を言うような人は一人もいなかった。誰も町を通りぬけようなんて思わなかった。誰もがここに住みついていたのであった。

ドナルド・リチー著

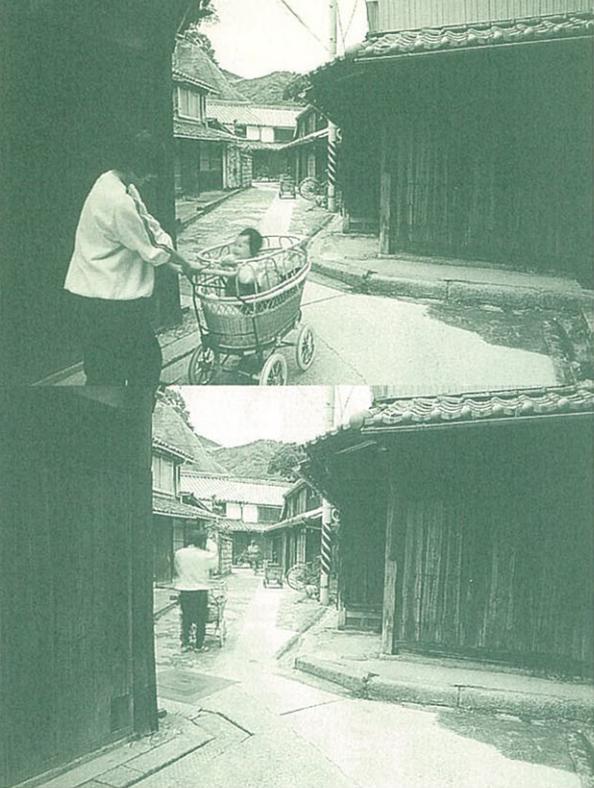
山本喜久男訳

「日本人への旅」より

文化という言葉にはさまざまな定義があるが、ある町の文化という場合、町の家並みや路地は「町の文化」の代表の一つであろう。しかもそれが一定の時代相を表しているとするれば、なおさら決定的である。アメリカやヨーロッパで多くの日本映画を上映し、「小津安二郎の美学」や「黒沢明の世界」を紹介したドナルド・リチーの目に御手洗の「町の文化」は右のように映ったのである。



御手洗の曲折。くの字に折れたこの道は祭のとき櫓を廻すのにたいへんコツが要る。



ドナルド・リチー Donald Richie

1924年アメリカ・オハイオ州生まれ。映画、文学、美術、音楽と多岐にわたる批評活動を展開し、日本文化に対する造詣は、古典・前衛を問わず深い。著書に「美しい日本」「小津安二郎の美学—映画のなかの日本」等がある。

「ほ」「ん」「ご」「も」伝言板



商工会員ご紹介



「仕事は楽しいです」と藤田さん。



人気商品の生ふりかけ。しそ味、ちりめん入り等種類も豊富。

「工場の清潔と異物が入らないよう日々気をつけてます」と上田伸司専務。



小長港前にある工場周辺は磯の香りが漂う。



心知れたもの同士。仕事場の雰囲気は温かい。



町内の商店でも売られている。

あつたかご飯に生ふりかけ、豊町の味としてユタカ食品のわかめとひじきの生ふりかけが喜ばれている。ユタカ食品は、秋光良洋社長が広島市で食品会社に勤めた経験を生かし、平成元年に地元で創業。社員6人のスタートから13年、現在25名が働き、島の就業の場としても貢献している。商品は生ふりかけの他に、スープ、炊き込みご飯の素など数十種類があり、中でも研究熱心な社長のアイデアで誕生した「ひじきの生ふりかけ」は、オリジナル商品として人気が高い。小長港前に位置する工場では、ひじきの洗浄、味の吸収を良くするための塩漬、脱水、乾燥、選別、味付け、12〜24

時間熟成の各工程を人の手と目で丁寧にチェックして商品が作られる。柔らかいひじきとわかめへのこだわりが、独特のしっとり感と豊かな風味を生む。島の人々がみかんと一緒にふりかけを島外の子や親戚に送り、受け取った人が近所の人へ配ったりと、全国に広がり注文も多い。「島は商品発送面で不便だが、空気が良くて、社員の気心が知れている点がいい。海草類はカルシウムや食物繊維の豊富な健康食。子供からお年寄りまで皆さんに食べてもらいたい」と上田専務。健康食品として、ユタカの島の味はこれからの食生活に欠かせない。あつたかご飯どうぞ。

生ふりかけのユタカ食品

「あつたか」の味じまん



「あつたか」の味じまん

笑顔の素敵な北森加代さん。



見たい! 知りたい! 伝えたい!



若胡子屋跡の裏庭の桜



天満宮の桜



東風崎神社の桜



本徳寺しだれ桜



豊町の桜名所案内 あなたはいくつ行った?

町内で桜の美しい場所をリストアップしてみました。お花見スポットとして参考にして下さい。

〔大長〕

●東風崎神社の桜（夜桜もOK）

○本徳寺しだれ桜

○三区藤棚の桜（トイレ有）

〔御手洗〕

●天満宮の桜

○若胡子屋跡の裏庭の桜

○満舟寺の桜

〔久比〕

○中道の桜並木（元豊高校ヨコ

の川土手）

○三角島の桜並木

〔沖友〕

○天満神社の桜

〔その他〕

●一峰寺山山頂の山桜

※：印はお花見名所

潮待ち館休息室に展示中の明地さんのお雛様。他にも珍しい品がたくさんあります。



ふる里に伝わる 江戸の雛人形を公開中。

前号で「御手洗の算盤名人」として登場した明地美代子さんが潮待ち館に江戸時代の雛人形や掛軸を展示されています。現在、休息室で訪れる人の目を楽しませていきます。どれも明地さんの家に伝わる古い貴重な品々で、1m近い背丈の子供人形もあります。ぜひ、散策の途中に潮待ち館へ立ち寄って、江戸を感じていただきたいと思います。



おたより

こんにちは。私は広島市内の手話サークルに通っています。私のサークルに大長みかんと農家から直接購入している人がいます。その人の世話で大長みかん農家の金子さんのみかん畑にサークルの皆でみかん狩に行きました。大長港に金子夫妻が迎えに来て下さりみかん畑に案内してもらいました。瀬戸内海を眺めながら早速みかんを一つ口にすると甘酸っぱいおいしい大長みかんが喉を潤します。「お日様をいっぱい浴びたみかんが甘いよ」等と講釈を言いながらみかん狩を楽しみました。金子さんは「みかんクイズ」を用意して下さい皆であてもない、こうでもない、楽しい時を過ごしました。帰りには御手洗の町もガイドしていただき歴史のある町だと言うことも初めて知りました。時間があまりなくゆつくり出来なかったのが少し残念でした。また、機会があったら御手洗、大長の町を散策したいと思っています。

（広島市・原垣内妙子）

みかんクイズ「この一枝にいくつみかんがあるでしょう?」



みかん畑で記念写真。「はい、みかん」

えど まちな
江戸の町並み



MITARAI
since 1666

- 寛文6年(1666) 町屋敷割りを藩より許され、
人家が建ちはじめる
- 正徳3年(1713) 町年寄り(大長村の統轄下)が置かれる
- 宝暦9年(1759) 常盤町を中心とした大火(11月)
- 文化3年(1806) 伊能忠敬が御手洗を測量した
(3月1~3日)
- 5年(1808) 町庄屋が独自に置かれる(初代柴屋)
- 文政9年(1826) シーボルトが寄港する
- 11年(1828) 千砂子波止の築造(11~12年)
- 11~13年 住吉神社造営(大阪 鴻池善右衛門寄進)
(1828~30) ※千砂子波止の築造以後、
住吉町の埋立てが進んだ
- 嘉永6年(1853) 吉田松陰が長崎行き途中に立ち寄る
- 元治1年(1864) 三条実美ら五卿が多田勘右衛門宅
(竹原屋)に奇遇する(7月22日~24日)
- 明治12年(1879) 御手洗町が大長村より独立
- 昭和31年(1956) 1町2村合併して豊町となる
- 平成6年(1994) 国選定 重要伝統的建造物群保存地区
となる

読者プレゼント

おいしい
ですよ



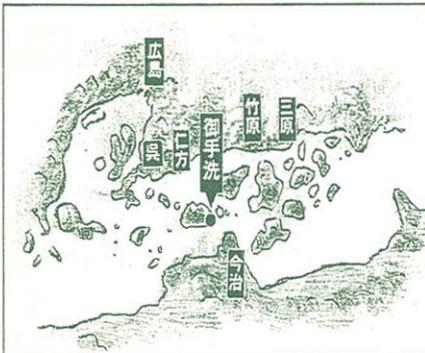
エダ食品「石巻味6撰」
生ふりかけ6点セット
3名様にプレゼント



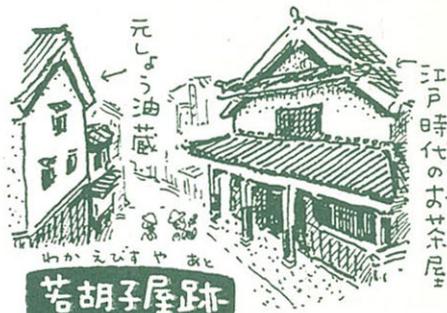
あったかご飯がすすむ風味豊かなひじきと
わかめの生ふりかけ。豊町の味として好評です。

- 応募方法/ハガキに「生ふりかけ6点セット希望」と書いて、
住所・氏名・年齢・職業・電話番号、そして「みたらい通志」に
対するご意見、ご感想をお書き添えの上、下記までお寄せ下さい。
抽選により、3名様にプレゼントいたします。
- 当選は発送により発表にかえさせていただきます。
- あて先/〒734-0302 広島県豊田郡豊町御手洗248-2
豊町商工会「みたらい通志」プレゼント係
- 締め切り/平成13年6月30日(当日消印有効)

豊町(御手洗)への交通のご案内



- ◆今治⇒大長…高速艇で30分
- ◆竹原⇒大長…高速艇で40分
- ◆仁方⇒大長…高速艇で40分
- ◆三原⇒大長…高速艇で1時間
- ◆呉 ⇒大長…高速艇で1時間
- ◆広島⇒大長…高速艇で1時間25分
(または) 高速バスと高速艇で約2時間
- ◆広島空港⇒大長…ツルボタクシーと高速艇で約1時間30分
- ◇大長⇒御手洗…バスで3分(または) 徒歩15分
- ◇大長⇒久比…バスで約10分(または) レンタサイクルで20分
- ◇大長⇒沖波…バスで10分(または) レンタサイクルで25分



観光案内(観光の間合せ・ガイド申込等)

◆潮待ち館・観光交流センター

☎ FAX 08466-7-2278